

No 89

ワキスジハヤブサの繁殖

孫 相 吾

中国国家級自然保護区

ワキスジハヤブサ *Falco cherrug* は大型のハヤブサ類で、新疆、青海、内蒙古自治区、四川、甘肅、チベットなど中国西部に分布し、国外ではヨーロッパ東部、アジア北部、中部、シベリア中部、モンゴル、南はイラン、インドなどに分布し3亜種に別れている。向海自然保護区はこの分布域の東はずれに位置しており、かつて観察された記録はあったが、繁殖が確認されたのは今回が初めてである。

2003年5月中旬、筆者は中国吉林省向海自然保護区において鳥類調査中に1対のワキスジハヤブサ成鳥を発見した。当時すでに育雛中期にあり、残念ながら繁殖生態をつぶさに観察できなかったが、後期の育雛行動については詳細な観察を行なうことができた。その後、記録を整理し、各方面の方々とともに検討したところワキスジハヤブサであることを確認した。

2003年6月14日我々は向海自然保護区の東方にあるコウノトリ繁殖区で調査中、コウノトリの古巣へ近づいた時、突然1羽のやや大型のハヤブサ類と思われる鳥が飛び立つのを見つけた。古巣の上を旋回しながら鋭い鳴き声を発し、下に向かって攻撃をしてきた。私はかつて、このようなハヤブサを見たことがなかった。したがって、望遠鏡によって詳細な観察を行なうと同時に写真撮影を行ない、飛行中の姿を撮ることができた。私は近くに巣があると判断し、周囲を探し始めたが、1個のコウノトリの古巣と、十幾つかのカササギの古巣以外には見つけることができなかった。再び眼鏡で観察を続け、彼の飛行方向を注意しながら観察したところ、彼は始終コウノトリの古巣上を旋回し、警戒の鳴き声を発していることがわかった。コウノトリの古巣を利用して繁殖しているのではないかと疑い、巣の下を丹念に調べているとき、巣の上に5羽の雛が立ち上がっているのを見つけた。私はすぐに巣上に這い上がって彼らを確認した。彼らはすでに体が大きくなっており、豊かな羽毛に覆われ、日齢40日程になっていると思われた。最も大きい雛は体長46cm、最少の雛の体長は43cmであった。コウノトリの古巣は直径が1.7m×1.5mで、ハルニレの樹上5mの高さに作られていた。この樹から約50mほど離れた灌木のかけに観察場所を決め、斜陽を背に受けながらこの場を去った。私はあまりにも意外な場所に営巣しているこの大型のハヤブサをワキスジハヤブサと、このとき断定しかねていた。

翌、6月15日の夜明け前、観察用具と撮影器具、ブラインドなどを用意して、予定された場所に到着し、ブラインドを設置した。空が明け始めたとき、親鳥は巣におらず、5羽の雛だけが静に寝ているようだった。5:40分ころ幾つかの雛が目を醒し、交互に立ち上がって羽ばたきを始めた。6:10分ころ雛が一斉に興奮したように空に向かって叫び始めた。上空を親鳥が旋回していた。6:30分ころ、親鳥の1羽が大きなネズミを捕獲して帰ってきた。急いでシャッターを切り、何枚かの写真を撮るとゆっくりと親鳥の観察をして、始めてワキスジハヤブサであることに驚いた。親鳥はネズミを雛に与えて5分ほどするとまた、飛び立っていった。8:30分ころ、2回目の帰巣、給餌があった。持ち帰った餌はカワラバトで、雛たちは争って食べ、生きようとする本能むきだしのよう感じた。正午ころ、3回目の帰巣があったが、獲物はなく、気温も高いためか、雛は動こうとしなかった。16:00ころ揃って羽ばたきをしたり、毛繕いを繰り返したり、大きく動かたびに産毛が抜けて飛び散るのが見えた。17:47分親鳥がケリを持って帰ってきた。19:40分観察を終え、ブラインドを撤収した。

その後毎日、4～6時間、遠くから望遠鏡により成長の変化を観察し、羽ばたきを繰り返す時

間が次第に長くなるのを見た。

6月19日早朝、巣の中に雛が3羽しか残っていないことに気づき、附近を調べると、ニレの木の下に立っている2羽の雛を見つけた。200mほど離れた樹のうえで親鳥が激しく鳴いていた。私が雛の写真を撮り、さらに彼らに近づこうと歩きだしたとき、2羽の雛は突然飛び立ち、500mほど飛んだ。見たところ飛翔能力に差があるようだった。私はさらにブラインドの中で、親鳥の帰ってくるのを待ち続け、16:00ころ300mほど離れたところで鳴いている親鳥の声を聞いた。巣に残った3羽の雛は絶えず羽ばたきを繰り返す、今にも飛び立つ様子を見せていたが、決心がつかないようだった。このとき親鳥が飛んできて、巣の上空を鳴きながら繰り返しかかえし旋回し、雛の巣立ちを誘っているかのようだ。

6月20日朝、2羽の雛が巣立ちしたのか、巣の中には最も小さい雛が1羽取り残されており、50mほど離れた樹の上に親鳥がとまっていた。その周辺から雛の鳴き声も聞こえてきた。最後の雛の巣立ちを見守っているものと思われる。

6月22日、巣はすでに空になっており、中を覗くと、バラバラになったケリと思われる鳥の食痕が残っていた。巣立ちした5羽の雛たちはまだ捕食能力がないので、この区域内で親鳥から給餌を受けているが、給餌を受ける回数は非常に少なく、まったく給餌を受けていない日もあるようだ。これは雛に狩をうながし、また、別れの準備でもあろう。今年の越冬はさらに南下するのか、それともこの地で越冬するのか観察を続けたいと考えている。

訳 福井和二

写真説明

- 1) 飛翔中のワキスジハヤブサ
- 2) コウノトリの古巣を利用したワキスジハヤブサの巣と雛
- 3) 約40日齢の雛
- 4) 雛の早朝の羽繕い
- 5) 巣立ち近い、羽ばたき
- 6) ネズミを持ち帰った親鳥
- 7) 給餌する親鳥
- 8) 給餌後の休息
- 9) 巣立ちした雛
- 10) 最後に残った雛、この直後に巣立ちした